



調布市議会議員、大河みとこの議員活動レポートです。市民と市政の架け橋となるべく奮闘中です。是非お読み下さい。

元気派市民 大河みとこの市議会レポート

NO.39

2003年 新春号

元気派市民とみとこの会

〒182-0011

調布市深大寺北町1-31-1

Tel&Fax 0424-88-4137

http://www.ops.dti.ne.jp/genkiha/

みみチャンネル

主なニュース

みとこの議会レポート	議員定数条例の一部改正により定数2人削減	・・・	P 2
文教委員会視察報告	地域が子どもを育てる/まち・商店街の活性化への新たな試み	・・・	P 3
選挙は政治の鏡です	(財)市川房枝記念会常務理事山口みつ子さんとの新春対談	・・・	P 4 - 5
12月議会・大河みとこの一般質問	事業選択の基準・ごみ問題・次年度予算について問う	・・・	P 6 - 7
元気派ひろば	元気派市民とみとこの会決算報告	・・・	P 8



調布市議会議員 大河みとこ

私たちのまちは、依然、厳しい社会状況が続いています。こんなときこそ風評に流されることがなく、安心して暮らせるまち、理解し協力しあえる地域社会を創ってきたいものです。難しい時代には「政治」をフルに機能させなければなりません。財政の健全化をはかる努力、そして自らのまちの将来に対し政策提案することに、私は正面から取り組んでまいりました。私たちのまち、調布のよりよい明日を築くために、これまでの八年間の活動を基盤に三期目に挑戦します。もちろん、これからも政党にしばられず市民の常識を貫き、市民と市政をつなぐ架け橋として、尚一層の努力をしてまいります。

今年もどうぞよろしくお願い致します。

目指そう!! 市民が主役のまちづくり

みとこの今年もがんばるぞ!! (今年の抱負)

1. 財政の徹底チェックと提案 決算の反省と市民の声が予算に反映されているか、税金を使う際のコスト意識など、調布の財布を徹底チェックし、より効果的な税金の活用を提案していきます。
2. 市民参加から市民参画へ 元気派が主張してきた市民参加が市政運営の中心になった今、より主体的に行動できるよう「市民参加推進条例」など基本となる仕組みを提案していきます。
3. 情報公開から情報共有へ 新規の計画には、市民も早期から情報を得て検討に加わるべきです。計画段階から行政と市民が等しく情報を共有できるよう「情報提供ガイドライン」を提案します。
4. 一歩進めたい調布のまちづくり 地域ニーズにあった公共施設整備が求められてきます。公共事業を見直し、今ある公共施設の有効活用について市民の視点から提案します。
5. 調布の福祉・教育への提案 子どもたちがのびのびと成長できる環境、高齢者が自立し安心して暮らせる地域、誰もが平等で尊重されるまちづくりを政策の基本として取り組んでいきます。

アイスランド大使館の招待で来日したフィンガドッテル前大統領と再会。気さくな雰囲気です話し掛けられ感動したが、十分思いを伝えられず残念。語学力をつけるのが私の大きな課題。(みとこ)

みとこの議会レポート



十分な情報公開と市民との意見交換がなされないまま
議員定数が二人削減され二十八人となる！

平成十四年度市議会
第四回定例会
十二月四日～十六日(十三日間)

調布市議会議員定数条例の一部
を改正する条例

賛成多数で可決

元気派市民の会・反対



調布市議会の議員定数を現行の
三十人に維持することを求める
請願

賛成少数で否決

元気派市民の会・賛成



元気派の意見

議会は市民代表の意志決定機関であり、議員定数問題は議会制民主主義の根幹に触れること。多様な市民の代表者の人数削減は、参加の権利を狭めることでもある。また現実的な問題として四常任委員会が二十八名では、可否

同数になった場合に、中立の立場にある委員長は裁決になり、委員会審議への支障も危惧される。開かれた議会を目指すためにも、定数削減提案の前にケーブルテレビ中継や公聴会開催などをして、市民の意見を聞く積極的な努力を議会が行い、情報公開と説明責任を果たす事が先と考え反対した。議員提案のこの条例に対しては、自ら議員定数維持の条例を議員提案し質疑に付したかったが、一人会派という人数制限で叶わず残念でならない。賛成十七人、反対六人で可決、六人の議員は意思表示もせずに議場から退席した。

平成十四年度一般会計補正予算
(第二号)

全会一致で可決

元気派市民の会・賛成



補正予算は、中高生の居場所づくり施設設置を含む。場所は上石原の鉄筋コンクリート四階建て民間商業ビル。

みとこの一言

補正予算には第一小学校のユーフォー事業用プレハブ工事費用も含まれる。学童の機能を兼ね備えた第一小学校の放課後遊び場対策事業であり、毎日子どもたちが使うプレハブを校舎北側の日陰の悪環境に設置するのは問題。基本的には子どもの居場所は校内に配置すべきで、会議室などの機能をプレハブに移すべきと提案中。30人学級問題もあり、教室の有効利用は今後各学校の課題となる。

二十年間の賃借で、認可保育園を二階に三、四階部分にはクラフト室多目的スタジアムスポーツキャンパスなどがある。両方の事業で二億四千万円程かかるが、基本計画にもなく、一定の地域に偏った青少年施設の設置に、箱物行政見直しを掲げた市長がなぜとの質疑もあった。現状の保育所不足と中高生の居場所づくりは緊急課題なので原案には賛成したが、運営方法など課題も多いことから、今後しっかりと見守る事業と受け止めている。

調和小学校室内環境調査(シックスクール)について

補正予算には、調和小学校の室内環境調査(シックスクール対策)でシックハウスを考える会(NPO)との契約金も入っていた。この問題で、私は市のホームページでの情報提供を早くから求めて

いたが、結局行政の対応は遅れた。早い段階から行政と市民が情報共有できるための「情報ガイドライン」の必要を痛感した。今後提案していきたい。

みとこのもう一言

元気派のホームページにシックスクールに関する匿名の投稿があった。関心の強さの裏付けだろう。ただし、匿名の場合は一方的で無責任な情報発信も多く心を痛めている。高度情報化時代とは言え、コミュニケーションの基本、マナーは変わらないはず。市民の良識がまちを良くしていく。

文教委員会報告

二月一日に開館予定の青少年交流館と石原小の「ユーフォー事業」視察。

青少年交流館は飛田給駅から徒歩五分、青少年の相互交流やグループ活動を支援。総床面積約二百二十平方メートル、二階の建てて準防音の多目的室ホール、集会室等があり、午後十時まで開館。防音装置の部屋は軽音楽演奏などに適していて、青少年のサークル活動支援が期待されるが、まちの中心ではない場所柄どのようにアピールしていくかが課題と感じる。

風邪を引きました。早々と話題の「足の裏シート」を貼って布団に潜りぐっすり休みました。やっぱり風邪に一番効くのは休息のようです。(みとこ)

みとこの活動日誌



- 10月 1 幹事会
- 8 高齢者福祉総合計画傍聴
- 10 中学校食の提供連絡協議会傍聴
- 12 市川記念会政治参画セミナー
- 12-13 全国自治体議員行財政自主研究会
- 17 幹事長会
- 18 商工まつり・幹事会
- 22-24 文教委員会視察(富山市、砺波市、鯖江市)
- 25 市民参加プログラム
- 26 (仮)武蔵境通り住民協議会
- 29 幹事会・市議会だより委員会
- 31 自治体経営改革フォーラム
- 11月 1 中学校食の提供連絡協議会傍聴
- 2 深大寺地域センターコミュニティ祭
消費者まつり
- 2-3 全国自治体議員行財政自主研究会
- 6 市政功労者表彰式
- 7 幹事長会・東京都道路整備事業促進大会
- 8-9 犬山市主催少人数授業研究交流会
- 12 高齢者福祉総合計画傍聴
- 14 アイスランド前大統領レセプション
- 15 八雲台小50周年記念式典
市川房枝記念会・出版記念の会へ出席
- 17 (仮)武蔵境通り住民協議会
- 18 幹事会・元気派ミーティング
- 19 幹事長会・ごみ懇談会傍聴
- 23 杉森小30周年記念式典
- 24 元気派学習会
- 25 文教委員会
- 26 幹事長会
- 27 環境保全審議会
- 28 中学校食の提供連絡協議会傍聴
- 29 市川房枝記念会政治参画セミナー
- 30 15分団消防自動車入魂式・ごみ懇談会
議会運営委員会・市民参加プログラム
- 12月 2
- 4-16 12月議会開会
- 9 高齢者福祉総合計画傍聴
- 19 中学校食の提供連絡協議会傍聴
- 24 幹事長会

文教委員会視察報告

富山県富山市・砺波市、福井県鯖江市を行政視察

平成14年10月22日～24日

富山市 / 中心市街地活性化に伴う起業家育成施策について

商店街の活性化のため、独立開業を目指す人を支援するミニチャレンジショップ事業を視察。富山市では「フリークポケット事業」と呼ばれ、お店を持ちたい人が2坪程度の店舗を一年契約・礼金敷金なしで、最初の三ヶ月は無料その後一ヶ月15,000円で借りられ、事業にチャレンジできる。開業前に簿記や経営指導が受けられるほか、融資制度(限度額1,000万円)もある。現在、店はアウトレット、リサイクルショップ、趣味の小物、足裏健康マッサージなど様々で、若者が多く大変活気がある。この事業は一人の市民の提案から始まった。元気な市民の発案を具体化できる柔らかな感性が行政に求められる。

砺波市 / 総合的な学習への取り組みについて

チューリップ栽培で有名な砺波市の市立出町小学校は、昭和63年度文部省の生活科研究推進・研究開発指定校になり「自立の基礎を養う」を目標に、地域の特色と外部評価を生かして学校運営をしてきた。新校舎建設では子どもたちが計画に参画、例えば二年間かけて校内のピオトープ(生態系を生かした景観づくり)を完成し、今も丹精こめて管理している。チューリップにちなみオランダのタイル、原産地トルコのデザインで作られたトイレなど快適な空間である。子どもたちは地域に発表し、その評価をまた学習に生かしている。学校・子ども・地域が無理なく相互乗り入れしている姿に、地域が子どもを育てる生きた人間教育をみた。



男子トイレ。まさに快適!



ランチルームは地域にも開放され、利用を有する生きた人間教育をみた。

鯖江市 / ファッションタウン計画・市民活動交流センターについて

鯖江市では元来眼鏡フレーム、繊維、漆器などの物づくりが盛ん。「ファッションタウン計画」は身近なテーマでまちの活性化を図るもの。民間非営利法人市民活動交流センターは、既存施設を新たな目的に活用したもので、ホール、交流サロン、会議室、調理室、ラウンジ等がある。青年会議所、鯖江子ども劇場、国際交流協会などが幹事団体となっているが、会費だけではコストを担えない現状。財源は施設の位置付けや運営の自主性に関わる。新しい動きに課題は付き物だが、調布でも新規施設開始の前には十分確認したい。

大河さんの選挙は「男女共同参画市民型選挙」—— 選挙は政治

(財)市川房枝記念会常務理事・山口みつ子さんとの新春対談より

都主催の調布・保谷線の環境施設帯整備検討住民協議会が終了し、地域住民の声を反映させるために「武蔵境通り住民協議会」が立ち上がった。これから本番、住民の声を生かしたい。(みとこ)



大河みとこ共著「47人の挑戦」を手に、「大河さんの考え方が集約されています。」と山口みつ子さん。

市川房枝政治参画センターとの出会いから

調布市議会議員へ

山口 大河さんはこの市川房枝政治参画センターの最初の一期生で、新聞の小さな広告を見て参加なさった。1994年のことでしたね。あなたはまちの市民運動をやっている主婦の一人という感じで、ポルテージが上がった大勢の女性たちの熱気にあたり貧血で真っ青になっていた。(笑い)今は見違えるようにたくましくなった。とにかく熱心に勉強されて調布市議に当選されたのだけれど、選挙を振りかえってどうでしょうか。

大河 選挙運動のやり方にこだわり、公職選挙法をきちんと守りながらボランティアの仲間を中心にした手作り選挙を行いました。99年の二度目の選挙も同じようにしましたが、議員としての仕事を抱えながら選挙に臨むのは大変でした。一般には選挙期間前によくされている根回し的なこと、事前ポスターとか個別訪問などをいっさいせずにやり抜くのは、やはり不安でした。でも選挙中は、まちの具体的な課題がよくわかっていたので、自分のメッセージをはっきりと伝えられたと思います。



財政に強い大河議員を高く評価

山口 実績が評価されて二度目の当選を果たし、まもなく8年になる議員活動で何に一番力を入れましたか。

大河 やはり“自分たちのまちのことは自分たちで決めたい”ということ、そしてその判断材料となる情報の共有、市民参画の保障という点に力を注ぎました。また、具体的な提案のできる参加型市政のためには、まちお金の使い方、つまり予算に民意を反映させなければなりません。そのために96年から決算時期の早期化を訴え続け、2001年9月の議会で可決、昨年ようやく9月決算が実現されました。決算を踏まえ次年度の予算編成にどう民意を反映させるか、これからが本番です。

山口 そうです、財政は大切です。概して女性議員は環境、教育、福祉などの問題に熱心で、もちろん大事なことでありますが、このどの問題に取り組むにしても、公平なお金の配分について判断が必要です。私はこの点で財政についてしっかりと勉強している大河さんを評価します。いろいろな意見は言うけれども、財政をちっともわかっていない議員が多い。こういう不況、財政困難のときに現実的にどうすべきかという実のある議論を私たちは聞きたいのです。でも財政の状況がわかればわかるほど、つらいこともあるでしょう。(大河思わず「そうなんです!」)ちょうど高速道路の問題に似て、続けるほど赤字は増えるが、それを必要としている住民もいる…。議員としては一番難しいところではないですか。市民のいろいろな要求に、いい格好できない時どうしますか。

大河 景気のいい時代の議員は市に要求だけ出せばよかった、今は何をやめて何をするか正しい判断が求められます。そこで私が提案しているのが「新しい公共」です。市政の主体者としての市民は行政にただ要求するだけでなく、自分たちにできることも考えなければなりません。行政と市民が情報を共有して、等しく判断できる材料を持ち、意思決定するのです。とにかく未来に、子どもたちに、無駄な借金を残すことは避けなければなりません。誰だって財布の中身、つまり財政がわかれば、節度あるお金の使いみちを考えます。市民も主体的に判断できるように、無所属という中立の立場から財政情報を公正にわかりやすく伝えるよう努めています。

治の鏡です



二度目の選挙戦。街頭演説は延べ200回。

地域の議員は無所属がいい。是々非々が貫けるから

山口 そのとおり。そこに住む人がその地域にあったことを決めるのですから。同じ東京都であっても地域によって財政や施策が大きく違い、国政や都政での党の考え方が地域にはそのまま当てはまらない。だから私はずっと地域の議会の議員は無所属がいいと考えています。実際にその立場を通してきてどうでしたか。

大河 党に所属し会派を組んでいれば、その人数によって、役職につくとか、発言の回数などが有利です。私は一人会派なので、例えば年に4回の議会で一般質問は2回に制限されます。でも、まさに自己責任、自己決定で、政党や会派の利害、議会内での与党・野党の立場といったものにとらわれず、市民の立場で是々非々でもものが言えます。市民に必要なことをきちんと議会に提起することが、自分の仕事であると思っています。

議員と支持者は車の両輪、支える人たちの質が議員を決める

山口 議員バッジを付けてしまうと、対等に支え合ってやってきた人たちとの間が開いてしまうことがよくあります。でも大河さんは人の意見を良く聞くし、ちっとも変らない。また、あなたを8年間支えてきた人たちも変わらず、あなたと共に成長されましたね。

大河 はい、幸せなことだと思っています。単なる仲良しクラブではなく、お互いに尊敬し合えて信頼できる関係で、議論をよくします。運営会議を月に1回開き、Eメールなども使って意見交換しています。

山口 続けて議席を確保して欲しいという支援者の声には受けて立たなければね。今度は三期目になるのですから、自分の主張を今まで以上に明確に打ち出して欲しい。そして応援団の方々も政策を理解し、現状を把握し、何をすべきか考える力をつけていただきたい。そういう応援団が、このまちにはこういう人が必要なんだと口コミで広げていく、それが住民参画の一步だと思います。今、有権者には強い政治家不信があり、信頼できる候補者が求められています。市川房枝さんは最後の参議院選挙で、87歳の高齢でありながら300万近い票を得ました。政治家不信であった世の中で、市川さんなら信頼できると投じられた票で全国区1位当選したのです。議員の質がよいかどうかの見極め方として、その応援団のあり方が大事です。大河さんを頭から足の先まで見てきた応援団が、責任を持ってあなたを推薦するのですから。大河さんたちは、みんなでお金を持ち寄ってみんなで運動をしてきました。その中では、男性も一緒に活動していましたね。女性候補だからといって女性ばかりで活動しているわけではない。私は大河さんたちを見て「男女共同参画市民型選挙」とネーミングしたい。「選挙は政治の鏡」ですから、これは本当に望ましいことです。手段を選ばない選挙をすれば、議員になっても筋を曲げるようなことになります。どうぞ大河さんはご自分のやり方を貫いて、筋を通し続けてください。4月の統一地方選挙は、調布でも議員定数削減などのさまざまな状況があって難しいでしょう。今、新年にあたり大河さんの一番言いたいことを聞かせてくれませんか。

大河 やはり「めざそう市民が主役のまちづくり」市民自治です。それにはセンターで学んだ「平和であること」が大前提です。「政治は暮らしの必需品」が浸透するように、生活に根ざした政治活動を続けていきます。

山口 大河さんがこれまでコツコツと築いてきたその基盤に立って、さらに活躍されることを祈っています。



より大きな手応えを。

お正月は長野に帰省。帰りは積雪で高速道路も60kmの渋滞となり、ぐったりと疲れてしまいました。それでも帰る実家かな。(みとこ)

みとこの一般質問



実施計画策定と予算編成における市長の命題である「継続と変革」について具体的な説明を！

市長は市政運営に当たり、これから何を継続し、何を変革すべきか、その選択が最大の命題だと語っています。市長が描く「市民本位の市政」の実現には、市長の理念・価値観を、市民と職員が共有する必要があります。市民が主体的に協働のまちづくりを進めるためにも、市長の市政運営における理念を確かめるべく質問しました。

1. 「継続」と「変革」に分ける価値基準と優先順位を問う

市長の市政運営の基本方針と方向性が伝わっていないため、行政が混乱している。市長の言う「市民本位の市政」実現に踏み出すために、市民と職員にそれをはっきり示して欲しい。

事業の「継続」と「変革」を判断する価値基準は何か？
継続、変革を実現していく政策の具

体的な優先基準は？
市長の基本的な考え方は職員に理解されているか、それをどう確認しているか？

【市長答弁】市民が協働意識を持ち得るような行政側の開かれた姿勢を堅持。市役所の果たすべき機能の強化とそれを可能にする意識改革が最優先。基本姿勢は職員に伝わっていると認識。

2. 実施計画の見直しにおける情報公開と市民参加について

市民参加型の市政には、迅速な情報の公開と共有が不可欠である。実施計画見直しにおける情報公開と市民参加にどんな方法を用いるのか。基本的な考え方、及び次の点を具体的に。

市民に関心のある具体的事業（国領北口再開発事業、健康福祉村構想に位置付けられる大町小学校、学習の森構想）は変革か、継続か？
行政アクションプランの見直しは着手したか。

【鎌田政策室長答弁】事業の決定プロセス、進め方をわかり易くすることが変革の中心。実施計画見直しの中間発

表は、遅れているが出来次第発表。国領北の公共床の活用策は年度内に市民と意見交換し継続。大町小の件は、若干の進捗調整が必要。中学校給食など新規も含め変革を図る。

3. 実施計画の推進体制について

各事業の変革にあたり、組織や人の変革をどうするのか。
今、職員および行政内の体制に対して改革すべき点は何であるか、改革に必要な強化策とその方向性は？
市長公約である女性助役の提案はいつ、どのように実現するのか？市長が助役に求める要件は何か。

【市長答弁】推進体制は実施計画の改善とともに取り組む。助役については人格高潔で行政に通じた方を早期に提案する。

4. ごみ問題に対する基本的な考え方について

ごみ問題に対する基本的な考え方と方策が明示されていない。有料化、個別収集の問題では、その実施時期が二

転三転。市民では解決できないごみ問題は行政責任の最たるものであり、前市長との選挙戦での主張の相違点の一つだった。現状の認識・判断について、市民にわかりやすい説明を求めらる。

【市長答弁】民間委託を前提に、個別収集は十五年四月実施をと努力したが結果的に再三の変更となった。ご理解を。焼却場は二十一年度、最終処分場は二十五年程度くらいが使用限界、緊急にごみ減量とリサイクルの推進を図るため家庭ごみ有料化は不可避。新ごみ処理施設は市民の声を聞き、説明責任を可能な限り果たす。

5. 予算編成において社会状況の変化と市民ニーズにどう答えるか？

景気低迷の折、何かを廃止しないと新たな市民ニーズに答えられない。これを予算編成においてどうするか、市長の基本的な考え方と以下の点を問う。
次年度歳入見込みは？
次年度予算の財政フレームについて歳入と歳出見込みとの乖離はどうか
マイナスシーリング3%のねらいとその達成状況は？

予算編成の進行状況と政策経費の伸びについて

【清水財政部長答弁】十四年度予算より約十八億円の減収。歳入見積六百三十億円、歳出見積七百四十億円で、乖離額は約百十億円の歳出超過。各部署単位で経常的な支出の抑制、新たな予算編成手法を試行し、達成する見込み。限られた財源の中、優先順位を明確にし、実施計画事業を予算に具現化。

再質問 答弁されなかった点について再質問した。

継続と変革を分ける明確な価値基準遅れている実施計画見直しの進行管理と情報公開、および市民参加



国領駅北口再開発の情報公開
大町小の計画は実現されるか
家庭ごみ有料化は十六年四月が目途と聞い

ているが真意は

ごみ焼却場問題を抱えている地域に対し市長の誠意ある説明を

中学校給食は協議会参加者からも疑問の声があるが、どう考えているか財政フレームの設定について説明を

【市長答弁】変革に対する基本理念は、市民と一体となった体制を作ること、市役所機能に対する意識は旧来のものと変わってもよい、福祉の向上に積極的に恐れずに取り組む、の三点。ごみ問題は最大限配慮し説明責任を果たす場を確保したい。有料化の時期は検討中。他は、事業の展開、政策立案等で方向を指し示してきた。

【鎌田政策室長答弁】国領の公共床については、調整が残っているため公表できない。大町小は暫定使用を続けていくしかない。中学校給食は市長公約であり前倒しで取り組む方向。
【清水財政部長答弁】財政フレームの設定については、実施計画のフレームが決まっていなかったので確定できないが、現在の想定では約六百億、本年度と同じか若干下回る。

再々質問 再答弁が不十分なのでさらに質問した。

実施計画が固まらないため財政フレームを組めないというが、そのように遅れている実施計画（一月末目途）を予算に反映できるのか。財政フレームをどうとらえているのか。

国領北の公共床については、本来なら政策立案過程から情報公開すべき。最終調整を慎重にする理由は、大町小の健康村が「現状のままではだめだと徐々にわかってきた」とはどういうことか。

教育の最重要課題は何か。中学校給食が、学童、ユーフオーなど放課後の子ども対策が、優先は何か？

【鎌田政策室長答弁】国領北の件は、最終調整しないうちは素案でも示す事はできない。大町小は市民の要望が多様で、実現には施設改修などの問題が多いので暫定使用を続けたい。中学校給食は公約であり、早期の実現を考えている。

市長は意思決定者。公約である財政再建を図りながら、限られた財源を生かし、コスト意識を持って市政

運営をして欲しい。迅速な情報公開と言いつながら、事業ごとに情報公開の度合いが異なるのではおかしい。また変革と継続を判断する明確な価値基準は最後まで示されなかった。市長と職員が意を一つにして、市民が求めている本当の「新しい風」を起こすよう要望して質問を終えた。

傍聴記

この7年余、何回傍聴席につき、どれほど腹立たしい思いをしただろう。居眠りをしている議員、隣と話をしている議員、知性と品格のかけらもないやじを飛ばす議員、党や会派のご同輩の“応援？”に嬌態で応えながら壇上に向かう議員もいた。市長や役所側の答弁が質問とまったくかみ合っていないか、議員や市民をばかにした物言いを感じ取ったこともある。がっかりするが、大河みとこさんを支持してきて良かったとつくづく思うのもこの議場である。議員席でいつも熱心にメモをとる姿、壇上でひるまず質問する凛とした姿は、周りの空気さえ変えてしまう。議会に臨む際、彼女がどんなに悩み苦しみながら準備しているかをわかっているから、多少身びいきになっているだろう。だが、大河さんは議会の何たるかを知っている。ここで調布の明日が決まる。議会にふさわしい人を選ぶのは、まさに市民の責任であると、傍聴するたびに痛感する。

田村千恵美（深大寺町東在住）

少人数授業研究交流会を大山市が全国によびかけ開催。私も参加してきた。公開授業では、子どもたちが吸い込まれるように主体的に授業に参加している姿に感動！（みとこ）

元気派市民とみとこの会 2002 年度収支報告

2002年は不況にも拘わらず前年度並の収入を維持することができました。皆さまの変わらぬご支援に心から感謝いたします。支出は大きな備品の購入がなかったため、前年よりも約30万円抑えることができましたが、会報発行や事務所の維持に必要な経費がかかり、収支は約30万円のマイナスとなりました。このマイナスは、選挙政治資金管理団体の積み立てから補填します。

政治資金管理団体には、不測の事態や選挙資金のために、大河議員の報酬の一部を積み立てています。

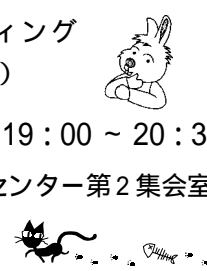
元気派市民とみとこの会の2002年決算

収 入		支 出	
会費	252,000	会報発行費	1,379,938
寄付 1	2,231,000	事業費(学習会等)	173,601
バザー他	117,499	備品消耗品	87,137
寄付 2	150,000	人件費	414,500
		事務所費	970,831
		その他経費	35,270
当期収入合計	2,750,499	当期支出合計	3,061,277
収 支			-310,778

元気派ミーティング
(議会報告会)

2月20日(木) 19:00 ~ 20:30

深大寺地域福祉センター第2集会室



<注記>
 会費: 252 口
 寄付 1: 会員および賛同者からの寄付と大河議員からの寄付 150 万円
 寄付 2: 学習会費用等に議員報酬値上げ分を充当(政治資金管理団体を通して)
 バザー: 2 回開催
 会報発行: 年 4 回
 学習会: 年 3 回、講師を招いて開催
 議会報告会: 4 回

元気派ひろば

次の議会は三月三日頃からの予定です。大河みとこは代表質問を行います。是非傍聴に行きましょ。詳しくは議会事務局にお問い合わせ下さい。(TEL 0424-81-7291)

「教育についていろいろ話そうよの会」のご報告

(2002年11月24日 市民センターにて)

シリーズ3回めの今回。たとえば、調布市が現在検討中の中学校における“食の提供”については、「もっと早期に十分な検討材料や情報が当事者に与えられて、より現場の声を反映するようにできないものか?」「こういう課題こそ現場の組織であるPTAが取り上げられればよいのだが...」といった意見が出されました。その他に、「学力とは何か」、「週5日制になって」、「中学校の部活動の現状」、「学校開放と地域の関係」、「校舎や施設の老朽化と維持」など話題は多岐にわたりました。とにかくもっと「現場の声」を市、都、国の当局に届ける必要を強く感じました。



伝言コーナー

ガレッジバザー
 三月三日(月)十一時から十五時 雨天の場合三月四日(火)深大寺元町三の三十九の十二梅原宅(たるま市の日です。深大寺入り口、昆布屋さんの裏です。)

みみチャンネルをお近くの方に配っていただけの方を募集しています。事務所までご連絡下さい。TEL0424-88-4137
 Eメール genkoha@ops.dti.ne.jp
 元気派市民とみとこの会の事務所は毎週月・火・木・金の10時から16時まで開いています。お見えになる方は予めお電話ください。

編集後記

冬の陽射しに抱かれ、白木蓮の蕾が今年もまぶしい。銀白色のヒロードはまるで子羊の耳のよう。平和な年でありますように。(ちえみ)
 今年も慌しく年が明けた。のどかなお正月はどこに...。(ちはる)
 年が改まった瞬間、居眠りをしていて、私の干支だというのに、今年一年、いろんなことにタイミングを外してしまっかも?!(まさこ)
 パソコンの不調さは、今までで一番、会報の完成もあやぶまれました。ああ、これからは本番なのに...。しっかりしてね!と祈る気持ちです。(みとこ)

元気派市民とみとこの会 会員大募集!

当会は市民による調布のまちづくりを目指して活動しています。みなさんも当会に入会して、これからずっと住み続けたいまち・調布にしていきましょう。



会費(年)一口1,000円 何口でも結構です!
 会費及びカンパは郵便振替にても受け付けております。
 口座番号 00180-5-577951
 加入者名「元気派市民とみとこの会」
 「みみチャンネル」購読のみ希望の方も事務所までご連絡ください。

- 次の活動を行います
- 1 懇談会、講演会の開催
 - 2 会報、パンフレットの発行
 - 3 その他